

第2回大府市環境審議会 議事録

日時：令和2年12月3日（木）

午前10時から

会場：大府市役所 会議室204

<委員出席者> 14名（敬称略）

千頭聡（日本福祉大学国際福祉開発学部教授）、西村和子（大府市教育委員会教育委員）、村瀬由理（大東小学校教諭）、川邊 真（愛知県知多県民事務所環境保全課課長）、山本 寛（区長会会長）、濱嶋淑子（大府市地域婦人団体連絡協議会会長）、鈴置満喜夫（大府市環境美化推進員）、野久照美（あいち知多農業協同組合女性部大府地域部長）、間瀬計行（大府商工会議所事務局長）、小椋和美（大府市生活排水クリーン推進員）、坂野好子（バンノ自動車商会代表）、山下琢司（株式会社豊田自動織機大府工場 安全・総務部 環境室室長）、相木徹（オオブユニティ株式会社代表取締役）、武田生子（公募委員）

1. 開 会

2. あいさつ

- ・市長あいさつ
- ・会長あいさつ

3. 議題

（1）大府市環境基本計画の改定について（答申）

- ・千頭会長より市長へ答申

4. 報告事項

（1）第3次大府市環境基本計画（案）及び一般廃棄物処理実施計画（案）の策定に伴うパブリックコメントの結果報告

- ・意見等なし

（2）第3次大府市環境基本計画について

【委員】

- ・概要版は市民に配布する予定か。

【事務局】

- ・イベントや会議などの際に配布する予定である。

【委員】

- ・家庭や事業所でできる取組例として「はじめのいっぽアイデア」を示しているが、これらのアイデアをどう市民や事業者・団体に普及していくかが重要である。

【事務局】

- ・パブリックコメントを実施した際に、全体への意見聴取と並行してホームページ

上で「はじめのいっぽアイデア」の募集を開始した。これについては、計画開始後も継続して行い、市民、事業者・団体からアイデアをいただきながら計画の目標達成に向けた取り組みを推進していきたい。

【委員】

- ・概要版にもはじめのいっぽアイデアについての記載があっても良い。

【事務局】

- ・アイデアを募集するだけでなく、アイデアを出していただいた方に実際に一緒に取り組んでいただくことで、市民、事業者・団体と一緒に取り組んでいけると考えている。

【委員】

- ・はじめのいっぽアイデアの表現は「～してみよう」など、柔らかい表現にすると良い。
- ・はじめのいっぽアイデア集もあると普及に役立つのではないか。

【委員】

- ・ゼロカーボンやカーボンニュートラルなどの言葉が使われているが、それぞれの言葉が示す意味をわかりやすく整理すると良い。

【委員】

- ・ゼロカーボンは概念が先行している部分もあるので、ゼロカーボンの達成がどのような状態を示しているのかについてしっかり議論しなければならない

【委員】

- ・排出される温室効果ガスを大府市の中だけで相殺するのは難しいので、カーボンオフセット等の検討も必要となる。

【委員】

- ・大府市の温室効果ガスの排出量を見ると産業部門からの排出が多いが、産業界だけが何とかしなければならないという議論になるのは望ましくない。ゼロカーボンを目指すための設備投資に対して国の補助金等を活用できるようにする等検討してほしい。

【事務局】

- ・排出量の割合で見ると産業部門が多いが、削減率で見ると家庭部門もまだまだ削減は進んでいない。すべての市民が自分事として捉えて学び気付き行動することが必要である。

【委員】

- ・大府市は産業部門からの排出が多いが、製造したものは大府市だけでなく日本中または海外にも運ばれて使用されているので、大府市の事業所だけの問題ではない。
- ・温室効果ガスの削減目標は大府市独自の算定ではなく、国や愛知県の目標を基に算出しているか。

【事務局】

- ・国や県の目標を基に算出している。
- ・温室効果ガスの排出量の割合は産業界部門が多くなっているが、今後削減できる割合でみると、産業界部門よりも家庭部門にまだまだ削減の余地があるとわかる。

【委員】

- ・植物による吸収源の話もあるべきだが、吸収量を定量的に把握することが難しい。

【事務局】

- ・自然共生がなぜ CO2 削減につながるのかわかりづらいが、植物が成長段階で CO2 を吸収することも含めてゼロカーボンシティを目指していく。

(3) 大府市一般廃棄物処理基本計画について

【委員】

- ・製品プラスチックの分別収集が始まると、これまでプラスチック製容器包装と分けるよう指導していたものが一緒に良くなるため、市町村の回収は大変になる。
- ・現在回収されているプラスチック製容器包装も、全てが思うようなりサイクルをされているわけではない。分別収集によるコストやエネルギー消費についても含めてしっかり考えていかなければならない。

【事務局】

- ・現行の計画では3 Rの中でもリサイクルに重きを置いた考え方になっていたが、今後はリフューズも含めた4 Rで考え、使わなくて良いプラスチックは使わないようにするなど、4 Rを推進していくことが重要と考えている。

【委員】

- ・バイオガス発電施設について、FIT による買取が終了した後、大府市内でどのように利用してもらうか市とも協議していきたい。

【委員】

- ・家庭系ごみが減少傾向で事業系が増加傾向とあるが、経済状況により左右されていることはご理解いただきたい。

【事務局】

- ・事業系ごみの原単位について、人口割になっていることについて以前からご指摘いただいている。事業所が増えればそれだけ事業系ごみの排出量が増えているようにみえてしまうので検討が必要である。

【委員】

- ・事業活動の単位（従業員数や出荷数など）で示されるべきだが、把握が難しいと理解している。
- ・以前、国の事業で、どうすれば売る側で排出抑制できるかという社会実験を実施したが、売る側としては、お客が求めている以上提供せざるを得ないので削減は難しいという声もあった。作る責任、売る責任、買う責任、使う責任それぞれの立場からの議論が必要で、大府市でもそのような議論ができると良い。

(4) バイオマスプラスチック製ごみ袋の導入について

【委員】

- ・資源回収にプラスチック製容器包装を出すために家で集めておくための袋を買っている。プラスチック製容器包装を資源として出すために新品の袋を使っている方もいる。例えば、紙袋等で集めて収集場所の麻袋に中身だけ出すようにできれば袋を買わなくて済むので検討してほしい。

【事務局】

- ・プラスチック製容器包装はかさ張るので、パッカー車で圧縮して運んでいる。袋に入れずに直接麻袋に入れると、軽くて飛んでしまう恐れがあるため、袋に入れて麻袋に入れてもらうようにしている。

【委員】

- ・プラスチック製容器包装は軽いため、麻袋が倒れると散らばって大変なことになる。それを解決できるような容器などあれば中身だけ出してもらうこともできる。

【事務局】

- ・大きめのお菓子の袋に入れて集めるなどの工夫によって袋を減らすこともできる。
- ・麻袋の口を入れるときだけ開けるようにすれば解決できるが、手間がかかるため現実的ではない。

【委員】

- ・そのようなアイデア出しをする機会を設けると良い。

【委員】

- ・指定ごみ袋の変更について、もう少し早く広報されると良かった
- ・すでにごみ袋の販売量を限定している小売店も出ている。
- ・不法投棄が増えてしまうことも懸念している。

【委員】

- ・庁舎内の自動販売機のペットボトル入り飲料の販売を廃止するとあるが、販売業者とは協議できているか。

【事務局】

- ・自動販売機を設置する業者とは協議できている。
- ・市が率先して進める意思を示していく。

【委員】

- ・ある企業の製品で、かつては容器にビンを利用していたが、ペットボトルに切り替えたという事例がある。これによって、プラスチックの使用量は増えたが、軽くなったことで輸送のためのエネルギーが削減された。
- ・その製品のサイクルの中でどのようにCO₂が排出されるのか多面的に捉え考えなければならぬ。

5. その他

- ・次回は、令和3年3月頃の開催を予定。